

*** 今日の健康 (7月) ***

< 風しん 最近の話題 (その2) >

<過去の予防接種制度に基づく風しんの予防接種回数と接種率>

風しんの予防接種は、昭和 51 年から始まりましたが、最初は女子中学生のみが対象でした。男女とも 1 歳すぎに接種するようになったのは平成 7 年からです（一部、平成 1 年から 5 年の間にMMR（麻しん・風しん・おたふくかぜ）混合ワクチンとして風しんの予防接種を受けている人もいます）。その後、接種を受けていない空白の世代を対象に経過措置がとられましたが、接種率は高くありませんでした。そのため、20 代以上の人（特に男性）は免疫をもたない人が多くなっています。

また、十分な免疫をつけるためには、2 回の接種が有効とされていますが、幼少期に 1 回しか接種していない人も多くいます。

風しんを患者を性別・年齢別に見ると、20 代から 40 代の男性が多く発症しています。これは予防接種を受けていない、または 1 回しか接種していない世代と一致しています。また、この世代は、これから父親になる人も多く、妊娠中の女性に感染する可能性があるのです。



<生年月日などからワクチン接種の状況を把握しましょう。>

昭和 37 年 4 月 1 日以前生まれの男女

定期接種が行われていませんでしたが、大半の人が自然に風しんに感染することで免疫があります。

昭和 37 年 4 月 2 日～昭和 54 年 4 月 1 日以前生まれの男性

中学生の時に女性のみを対象として、学校で集団接種が行われていたため、自然に風しんに感染する機会が減少しましたが、男性は定期接種制度が行われていないので、風しんの免疫がない人が多い世代です。

昭和 54 年 4 月 2 日～昭和 62 年 10 月 1 日生まれの男女

男女とも中学生の時に予防接種を受ける対象になっていましたが、中学生のときに個別に医療機関で予防接種を受ける制度であったため、接種率が低く、風しんの免疫がない人が多い世代です。

昭和 62 年 10 月 2 日～平成 2 年 4 月 1 日生まれの男女

男女とも幼児のときに予防接種を受ける対象となり接種率は比較的高いのですが、自然に風しんに感染する機会がさらに減少したため、接種を受けていない人には風しんの免疫がない人が比較的多い世代です。

引用：日本病院会雑誌 2018 年 4 月号 46 (424-427)

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861

天文台通り多摩信用金庫のななめ裏